

令和7年度モニタリング評価実施による改善のための対応方針

施設名： 大阪府立国際会議場

評価項目	評価基準	評価委員会の指摘・提言等	改善のための対応方針	次年度以降の事業計画等への反映内容
I 提案の履行状況に関する事項 (3) 国際会議の誘致・開催等の取組内容、手法及び実現可能性	○ 同種施設の動向や今後のコンベンション等の需要を見据えた戦略的な取組が適切に実施されているか	・ 二国間経済会議については、JETRO だけでなく関係事務局にもアプローチを行ってほしい。 ・ 2024 年の ICCA 国際会議の開催状況割合では、科学化学・技術・自然分野で 51%、医学分野が 21.9%と、自然科学系の割合が大きくなっている。外国人の参加者率の向上にも努めてほしいことから、外国人参加者が多い自然科学系会議の誘致について、積極的な展開を期待する。	・ 二国間経済会議について、引続き大阪にて開催していただけるよう、関係団体及び関係事務局と連携し、さらなる PR 活動に取り組まれない。 ・ 自然科学系の国際会議の開催件数については増加傾向にあるが、さらなる業務展開を行っていただきたい。	・ 二国間経済会議について、2026 年度以降も大阪にて開催していただけるよう、関係団体及び関係事務局と連携し、取組みを進める。 ・ 万博を契機に開催された国際会議の対応で培った経験を活用し、外国人参加者が多い自然科学系の国際会議及びそれに付随する国際団体の会議の誘致活動について、引続き積極的に進める。
(4)サービス向上を図るための取り組み内容、手法及び実現可能性	○ 飲食、物販、ケータリングなどのサービス事業の取組みが適切に実施されたか ○ 施設を PR する取組みが適切に実現されたか	・ 5 階の食堂について、国際会議の誘致の観点から、あり方を考えるべき。 特色のある食堂の設置、学会前の発表練習用のスペースとしての活用のほか、飲食にこだわらず、代替機能は他の階にあるのであれば、食堂をなくし、会議・催事の間の休憩スペースにするなど、次期指定管理期間に向け、方向性を定めてほしい。 ・ ホームページが見やすくなったのは良かった。ICCA の大阪の順位が上昇しているため、国際会議が開催される場所として大阪を PR したり、学会等の開催で大阪を選んだ理由を聞いて営業に活用したりして、次の開催に向け、さらに繋げてほしい。	・ 5 階の活用方法について、現在、空間を整備し、休憩スペースとして広く利用していただいている状況であるが、今後の活用方向性について検討を始める。 ・ 会議開催件数のさらなる増加に向け、WEB マーケティングに留まらず、営業活動の強化を促進されたい。	・ 5 階について、現在、休憩スペース及びビジネスセンターとして利用しているが、今後の活用方法については、所管課との間で協議を進める。 ・ 会議開催件数のさらなる増加に向け、展示会への出展や個別の訪問営業等、マス向け・パーソナル向けのそれぞれに対し、営業活動の強化を図る。

I 提案の履行状況に関する事項 (5)機能向上のための取組内容 (6)施設・設備・備品等の維持管理の内容、適格性及び実現可能性	○ 機能向上のための取組みが適切に実施されたか ○ 維持管理の役割分担に基づき、適切に実施されたか ○ 施設、設備、備品等の安全管理・安全対策が適切に実施されたか ○ 施設、設備、備品等の改修、修繕、更新が適切に実施されたか ○ 効率的、計画的に適切に実施されたか	・第3回評価委員会においては、修繕費・機能強化費に関して、評価がしやすいように、第三四半期の実績にくわえ、年度末時点の執行見込についても、資料への記載をお願いしたい。	・第3回評価委員会においては、第三四半期の実績値にくわえ、年度末時点の執行見込の数値についても資料へ記載するよう要請する。	・第3回評価委員会においては、年度末時点の執行見込の数値がわかるように、評価に係る資料へ追記する。
II さらなるサービスの向上に関する項目 (1)利用者満足度調査等	○ 利用者満足度に係るアンケート調査等が適切に実施されたか	・WEB化によるアンケート回収率の低下はやむを得ないが、引き続き、回収率を上げるための取組みは実施されたい。 ・直接ヒアリングにおいて取得した定性的なデータは、今後の管理運営業務に活用いただきたい。また、顧客の声について、どのような意見があり、どのような改善や対応を実施したかについて、評価票へ記載をお願いしたい。	・アンケート回収率を上げる取組みについては、引続き継続していただく。 ・一部主催者に対する直接ヒアリングは有効と思われることから、今後も継続していただく。また、ヒアリングで得られた意見に対する取組みについて、評価票に記載するよう要請する。	・満足度を含め、利用者の声を取得し、より良いサービスの提供やお客様満足度の向上につなげる取組みを進める。 ・直接ヒアリングは継続するとともに、ヒアリングで得られた意見に対する改善取組状況等についても評価票に記載し、報告を行う。
その他	—	・第1回評価委員会において、年度末実績について見込との差異があれば、説明されたい。	・第1回評価委員会において、見込と実績に差異があった項目については、資料を用いて報告を行うよう要請する。	・第1回評価委員会において、年度末見込と実績に差異があった項目については、資料を用いて報告する。